

Economic Monitor

所 長 三輪裕範 03-3497-3675 miwa-y@itochu.co.jp
主任研究員 丸山義正 03-3497-6284 maruyama-yo@itochu.co.jp

輸出低迷が継続、7～9月期は外需が日本経済を明確に下押し (8月貿易統計)

8月も日本の輸出は減少。仕向け地別には、景気低迷に苦しむEU向けの落ち込みが顕著なほか、アジア向けも振るわず。アジア向けでは対中国は底堅いが対ASEANが年前半急増の反動から減少しているほか、対NIEsも低迷。7～9月期は、外需が日本経済を明確に下押し見込み。

8月も輸出減少が継続

8月の貿易統計によると、輸出額(名目輸出)は前年比▲5.8%(7月▲8.1%)と3ヶ月連続で減少した。前年比のマイナス幅こそ7月から縮小したものの、財務省試算の季節調整値では前月比▲2.1%(7月▲1.2%)と減少ペースが加速しつつ4ヶ月連続で減少、価格変動の影響を除いた当社試算の実質ベース季節調整値でも▲1.8%(7月▲3.5%)と2ヶ月連続で減少しており¹、輸出は下げ止まっていない。後述するように、8月は景気低迷の続くEU向けが大きく落ち込んだほか、アジア向けも対ASEANや対NIEsを中心に低調だった。

輸入の増勢が一巡

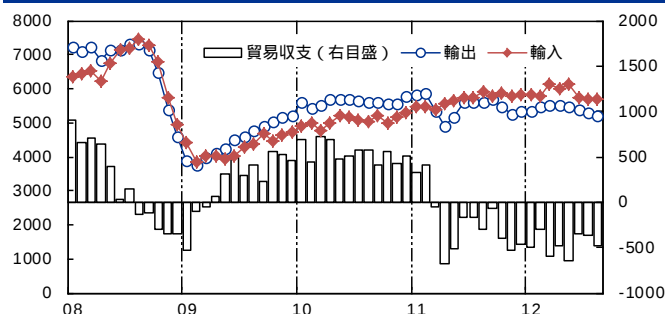
一方、輸入額(名目輸入)は8月に前年比▲5.4%(7月2.1%)と2ヶ月ぶりの減少に転じた。財務省試算の季節調整値は前月比▲0.2%(7月▲0.7%)と3ヶ月連続で減少、当社試算の実質ベース季節調整値も▲4.2%(7月2.0%)と減少している。資源価格の下落に伴う名目ベースの目減りに加え、実質(数量)ベースでも輸入の増勢は一服しつつある。後述するように、鉱物性燃料の輸入が減少している影響が大きい。

7～9月期は外需が成長を明確に下押し

名目の貿易収支は原系列が▲7,541億円(7月▲5,189億円)と2ヶ月連続の赤字、季節調整系列は▲4,728億円(7月▲3,719億円)と18ヶ月連続の赤字かつ赤字幅が拡大した。輸出低迷の影響が大きい。

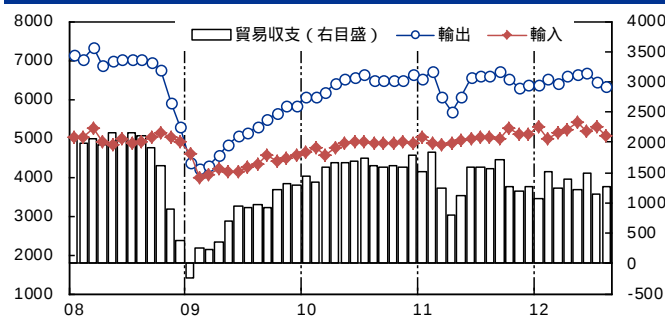
実質GDPへの影響を考えるために実質ベースの輸出入について7～8月平均を見ると、まず実質輸出は7～8月平均が4～6月期を3.9%も下回っており(4～6月期前期比3.3%)、GDPベースの輸出も7～9月期は減少が避けられない(4～6月期は前期比1.2%)。一方、実質輸入も弱含んではいるものの、7～8月平均は4～6月期を1.8%下回るにとどまっており(4～6月期前期比2.5%)、輸出に比べれば減少率が小さい。そのため、輸出から輸入を控除した実質純輸出は7～

名目輸出入の推移(10億円、季調値)



(出所) 財務省

実質輸出入の推移(10億円、季調値、2005年基準)



(出所) 財務省、日本銀行

¹ 但し、輸出数量指数の季節調整値は8月に前月比2.6%(7月▲4.2%)と4ヶ月ぶりの増加に転じており、輸出は8月も減少が続いたが、悪化度合いを強めた訳ではないとも言える。

9月期に明確な縮小を示し、実質 GDP 成長率に対する押し下げ寄与が4～6月期の前期比寄与度▲0.1%Ptから拡大する可能性が高い。

8月も輸出の減少は止まらず、7～9月期の日本経済は外需の下押しにより、良くてもゼロ成長にとどまる見込みである（当社は現時点で7～9月期を年率0.5%成長と予想）。翌期10～12月期には米国向けやアジア向けを中心に輸出環境は幾分好転すると見込まれるが、エコカー補助金終了を受けた個人消費の縮小が響き、日本経済はマイナス成長に転落すると予想される。なお、対中関係の悪化が10～12月期の輸出回復を遅らせるリスクがある。

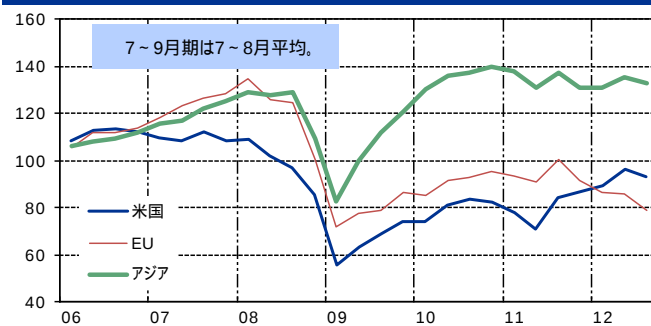
輸出の仕向け地別動向

当社試算の実質ベース・季節調整値にて輸出の仕向け地別動向を見ると、8月はEU向けが前月比▲6.4%（7月1.4%）と大幅に減少、アジア向けも▲1.8%（7月▲3.3%）と2ヶ月連続で減少し、輸出全体を押し下げた。なお、米国向けは8月に1.2%（7月▲3.9%）と幾分持ち直している。

EU向け輸出は、域内経済の低迷を反映して低調に推移している。7～8月平均が4～6月期を7.8%下回っており、7～9月期は4四半期連続の減少が必至と言える（4～6月期前期比▲1.0%）。品目別の内訳を見ても輸送用機器や一般機械、金属製品などを中心にほぼ全減の状況である。

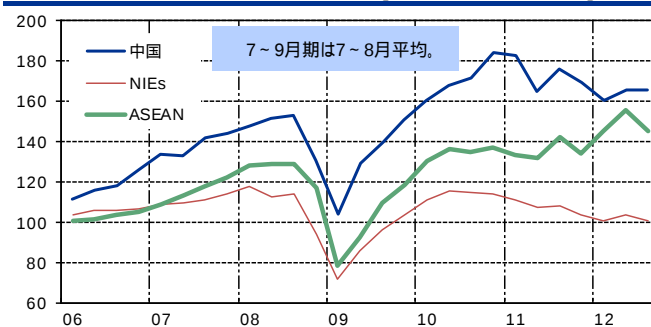
アジア向けは4～6月期に前期比3.1%と3四半期ぶりの増加に転じたものの、7～9月期は7月前月比▲3.3%、8月▲1.8%と2ヶ月連続で減少しており、7～9月期は再び減少すると見込まれる。内訳を見ると、中国向けは4～6月期に前期比2.9%と増加した後、7～8月平均は4～6月期対比でほぼ横ばいを確保しており、力強さは欠くものの、中国の内需の底堅さを受けて日本からの輸出も上向く兆しを見せつつある。一方、ASEAN向けは1～3月期前期比8.5%、4～6月期7.2%と2四半期連続で増加した後、7～8月平均は4～6月期を6.9%下回った。これはタイの復興需要などで2012年前半の輸出が押し上げられた反動に加え、世界経済減速を受けてASEANからの輸出が鈍化しているためと考えられる。但し、ASEANの内需は堅調に推移しており、日本からの輸出も10～12月期には持ち直す可能性が高い。NIEs向けは4～6月期に前期比2.7%増加した後、7～8月平均が4～6月期を3.1%下回った。世界的にIT・デジタル製品需要が低調なため、同分野の設備投資が絞り込まれ、日本から

地域別実質輸出の推移（2005年=100）



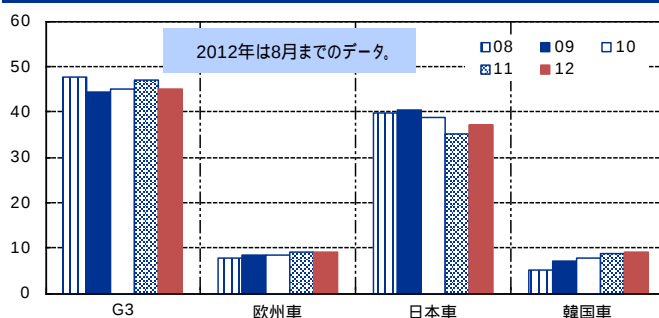
（出所）財務省、日本銀行

対アジア実質輸出の推移（2005年=100）



（出所）財務省、日本銀行

米自動車市場販売シェア（%）



（出所）Bloomberg

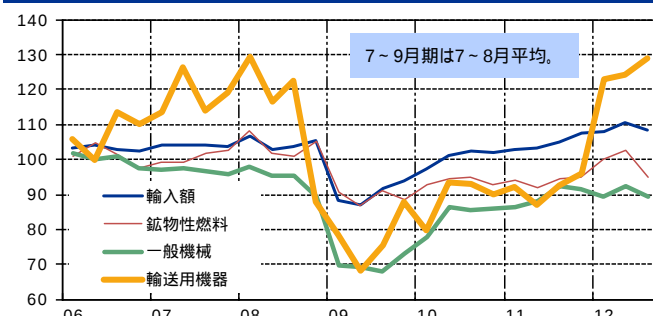
の資本財輸出が振るわない。

米国向けは4～6月期に前期比7.5%と4四半期連続で増加した後、7～8月平均は4～6月期を3.1%下回っている。自動車を中心とする輸送用機器の輸出が7月前月比▲1.2%、8月▲6.9%と減少している影響が大きい。但し、米国の自動車市場は堅調、かつ日本車のシェアも回復傾向にあるため、日本からの自動車輸出が減少を続けるとは考えにくい。そのため、米国向け輸出も10～12月期には回復へ向かうだろう。

輸入の品目別動向

8月の実質輸入を品目別に見ると、鉱物性燃料が前月比▲2.6%（7月▲5.4%）と3ヶ月連続で減少したのが目立つ。2012年前半に発電向け燃料を早期に手当てした反動もあり、鉱物性燃料の輸入は足元で減少傾向にある。他の品目も7～9月期は総じて増勢が一服した。ただ、自動車など輸送用機器の輸入は1～3月期前期比28.3%、4～6月期1.1%、7～8月平均の4～6月期対比3.8%と増加基調を維持しており、日本メーカーによる海外生産車の輸入が拡大していることを確認できる。

実質輸入の推移（2005=100）



（出所）財務省、日本銀行